

# わたりだ

渡田小学校教育目標  
やる気いっぱい  
笑顔いっぱい  
元気いっぱい  
川崎市立渡田小学校

2024. 6. 3

## 備える

学校長 楠田 典子

5年生の2クラスで、社会科の授業をしています。工場見学などの予定を考えながら授業の進度を調整したり、教材について学んだり（教員も常に知識をアップデートします。）、どんな資料を用意したら子供たちが授業に食いついて（あ、すみません！）興味をもってくれるか悩んだり……。1時間の授業の準備をするのにも、結構な時間をかけています。担任は、毎日6時間分の授業の準備をしているのですから、大変です。でもその時間が教員にとっては1番楽しい時間だと私はずっと思ってきました。ただ、教員が授業の準備をする時間は、残念ながら勤務時間が終わった5時以降になることが多いことが、教員の多忙化問題の核心です。

少し話がそれました。5年生の社会科の学習の始めに、日本の国土や気候についての学習をしました。その中で、日本列島がユーラシア大陸の東の端にあること、そして、大昔にはくっついていた大陸から引きはがされて今のような島になったと考えられていることなどを学びました。大陸と海底の二つのプレートがせめぎ合う場所に位置する我が国は、そんなわけで、世界の中でも地震大国です。渡田小学校はそんな日本の中でも海沿いに位置しています。ひとたび大きな地震が発生すれば、津波や地面の液状化など、海沿いならではの災害に見舞われるかもしれません。学校として、その「いざ」に備える取り組みを学校の重点目標に掲げて強化してきました。先日の引き取り訓練も災害に備える取り組みの一つです。暑い中、保護者の皆様にご協力いただき、ありがとうございました。ただ、本当に引き取りが必要なほどの災害が起きたときは、今回のように引き取りがスムーズに行われない可能性が高いことを、児童には伝えました。公共交通機関が止まってしまった場合、保護者の皆さんが職場などから学校に到着するには、かなり時間がかかることが予想されるからです。ちなみに東日本大震災の時は、私の勤務していた学校で最後の児童が引き取られたのは、夜中の11時30分過ぎでした。かなり長い時間、学校で過ごす子どもたちがいるはずだということも想定しなくてはなりません。渡田小学校では、一昨年から、児童用の備蓄食料の内容や保管場所を見直し、一人一食のアルファ化米とペットボトルの水1本を、3階の教室に備蓄しています。



また5月24日には、学校がいざ避難所となったときに、学校の職員がまずしておくべきことを明らかにし、実際に動いてみる研修を、区役所の危機管理担当の職員を招いて、田島町の町会長さんや防災担当の方も一緒に行いました。安全が確認されるまでは避難してきた方を校舎内に入れてはいけないこと、避難してきた方の待機する校庭も、液状化や地割れなどがないことを確認しなくてはならないことなど、言われてみればもっともなのに、考えが及んでいなかった点がたくさんありました。私たち教職員は、児童がいる間は、学校が避難所になることになっても、もちろん児童の安全確保が第1の任務です。

ですが実際は、町から避難してくる方々の対応も、役所の担当者が来る前に行わなくてはならない状況が予想されます。

6月15日の土曜参観日には、午後2時から3時まで、区役所の危機管理担当の方を講師にして、田島地区の津波などによる被害が、現在どのように想定されているのかについて、研修の機会を計画しています。最新のハザードマップもいただけるようですので、保護者の皆様もぜひご参加ください。先日ミマモルメのメールで参加希望を受け付け中です。大切な命を守るために、一緒に備えていきましょう。